

特集

ジビエでおいしく
魅力を発信！

西多久 テラス

特集

西多久町八久保

地域おこし協力隊として令和3年から3年間活動した木下光次さん。地元農家を悩ませていた獣害への対策に尽力し、みんなから「ハンター木下」の愛称で親しまれてきました。

着任から3年目の夏にジビエを提供する「西多久テラス合同会社」を開業。任期を終えた今も西多久の魅力を高め続ける木下さんの新たな挑戦をご紹介します。

地域を照らす新たな拠点

地域おこし協力隊として令和3年に西多久町へと移住した木下さんは、住民の困りごと相談から名産品のPRなど、幅広く活動されてきました。中でも獣害対策には農家のみなさんの声を受けて熱心に取り組み「安心して農作業できる」と喜ばれています。

駆除したイノシシは食肉加工ができない場合、地面を1m以上掘って埋めるしかありません。そうした中で「イノシシ肉でジビエ料理を提供すれば新たな名産品になるはず」という思いがあった木下さんは、課題を魅力へと昇華するために動き出しました。

西多久テラス合同会社
代表 木下 光次さん

ジビエとは？

狩猟で得た野生動物の肉のこと。

イノシシを食肉として加工処理する設備を整えるには、さまざまな厳しい基準を満たす必要があります。

「加工処理は未経験だったので、地元猟友会や保健所など、多くの方々に助言をいただきましたながら一つ一つ進めていきました」と当時を振り返ります。

そして令和5年8月、遂に「西多久テラス合同会社」を開業。西多久を太陽のように明るく、元気に照らしたいという思いを込めて名付けられました。地域おこし協力隊が食肉加工を担う会社を立ち上げたのは、県内初めてです。

おな
置を仕掛ける
“ハンター木下”